

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要						
建物名称	九州栄養福祉短期大学・東筑紫短期大学 講堂兼体育館新築工事	BEE	1.5	BEEランク	A	★★★★

2 重点項目への取組み度						
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価			
1 循環型社会への貢献	3.4 /5		ふつう			
2 地球温暖化対策の推進	3.9 /5		ふつう			
3 豊かな自然環境の確保	2.6 /5		がんばろう			
4 高齢社会への対応	3.0 /5		ふつう			
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上		ふつう 3 点以上	
					がんばろう 3 点未満	

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア						
使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版		使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016v2.1				
1 循環型社会への貢献			スコア平均 3.4			
リサイクルに関する配慮	長寿命化に関する配慮					
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 3.1	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 3.8			
		Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3.4			
躯体以外の材料でリサイクル品を採用している。また、躯体と仕上げ材が比較的分別可能で再利用可能性向上へ取り組んでいる。		外壁面及び配管系統に長寿命材を採用している。				
2 地球温暖化対策の推進			スコア平均 3.9			
省エネ・省資源に関する配慮	節水に関する配慮					
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.8	LR2/ 1.1 節水	スコア 4			
高効率設備機器を採用している。		節水型便器、自動水栓、擬音装置を採用し、節水に配慮している。				
3 豊かな自然環境の確保			スコア平均 2.7			
生態系保全に関する配慮	緑化に関する配慮					
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 2	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 3			
		LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 3			
外構緑化指数75.1%規模の緑化を計画し、維持管理に必要な設備を兼ね備えている。		ピロティを設け日陰の形成し、敷地内の緑化面積、舗装面積により暑熱環境の緩和に努めている。また、高効率設備機器の採用により、大気への排熱量低減に努めている。				
4 高齢社会への対応			スコア平均 3.0			
バリアフリーに関する配慮	主な指標					
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 3	建物の外皮性能 (BPI評価)				
バリアフリーに配慮した計画。		非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級	0.66			
		建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価)				
		非住宅:BEI値、住宅: -	0.7			
		外構緑化指数	75.1 %			
		建物緑化指数	0 %			

: 入力欄

: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学	階数	地上4階
建設地	北九州市小倉北区下道津5丁目94番	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域、市街化	平均居住人員	300人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,920時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年2月 予定	評価の実施日	2017年12月27日
敷地面積	2,287㎡	作成者	(株)エネ・グリーン寺川幸子
建築面積	1,861㎡	確認日	2017年12月27日
延床面積	2,821㎡	確認者	(株)エネ・グリーン定森淳一



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	体育館としての安全性と講堂としての設備を兼ね備えた計画。	
その他	特になし	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
壁面・天井の二面に吸音材を使用し音環境に配慮した計画。F☆☆☆☆を採用し、空気質環境にも配慮している。	天井高さ、階高を十分に確保している。バリアフリーに配慮した計画。また、維持管理に配慮した計画。	敷地環境に合った緑化計画に取り組み、最大限の緑化に努めている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LED照明の採用等、高効率設備機器を採用している。	節水便器、自動水栓、擬音装置の採用。有害物質を含まない防水プライマーを使用し、有害物質削減に努めている。躯体以外の材料でリサイクル品を採用している。	良い照明環境チェックリストの過半に該当し、光害の抑制に配慮している。広告物照明はない計画。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
九州産業福祉大学・東筑紫短期大学 講堂兼体育館新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.3
Q1 室内環境					0.40		-		3.2
1 音環境				3.4	0.15		-		3.4
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40		-		
1.2 遮音				3.6	0.40		-		
1 開口部遮音性能				3.0	0.30		-		
2 界壁遮音性能		RC壁t200+空気層+PB12.5×2よりDr-55相当		5.0	0.30		-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		鋼製床H300+構造用合板t15+複合フローリングt15、Lr60相当		3.0	0.20		-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		鋼製床H300+構造用合板t15+複合フローリングt15、Lr60相当		3.0	0.20		-		
1.3 吸音		壁面:有孔合板、天井:ロックウール化粧吸音板、グラスウール吸音ボード		4.0	0.20		-		
2 温熱環境				2.9	0.35		-		2.9
2.1 室温制御				3.6	0.50		-		
1 室温		冬季22℃、夏季26℃ 中間レベル4相当		4.0	0.60		-		
2 外皮性能		窓SC=0.64、窓U=4.2、外壁U=1.139 レベル3相当		3.0	0.40		-		
3 ゾーン別制御性					-		-		
2.2 湿度制御		加湿器無し		1.0	0.20		-		
2.3 空調方式		空冷ヒートポンプエアコン		3.0	0.30		-		
3 光・視環境				2.8	0.25		-		2.8
3.1 屋光利用				1.8	0.30		-		
1 屋光率		各開口部による屋光率:0.06~0.9%、各区画屋光率:約0.9~0.96%		1.0	0.60		-		
2 方位別開口					-		-		
3 屋光利用設備				3.0	0.40		-		
3.2 グレア対策				2.0	0.30		-		
1 屋光制御				2.0	1.00		-		
3.3 照度				3.0	0.15		-		
3.4 照明制御		タイマー制御、リモコン制御		5.0	0.25		-		
4 空気質環境				4.2	0.25		-		4.2
4.1 発生源対策				5.0	0.50		-		
1 化学汚染物質		全てにおいてF☆☆☆☆		5.0	1.00		-		
4.2 換気				3.0	0.30		-		
1 換気量				3.0	0.33		-		
2 自然換気性能				3.0	0.33		-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33		-		
4.3 運用管理				4.0	0.20		-		
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50		-		
2 喫煙の制御		健康増進法に基づき施設内全面禁煙		5.0	0.50		-		
Q2 サービス性能				-	0.30		-		3.5
1 機能性				3.7	0.40		-		3.7
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40		-		
1 広さ・収納性					-		-		
2 高度情報通信設備対応					-		-		
3 バリアフリー計画				3.0	1.00		-		
1.2 心理性・快適性				5.0	0.30		-		
1 広さ感・景観		天井高さ:12.75m		5.0	0.50		-		
2 リフレッシュスペース					-		-		
3 内装計画		スポーツ活動時の安全性と講話時の環境を兼ね備えたデザイン計画		5.0	0.50		-		
1.3 維持管理				3.5	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い内装材の採用		4.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性				3.2	0.30		-		3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.8	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		装飾塗材(アクリル系):30年、タイル貼:40年、御影石:65年		5.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水:VP、給湯:SUS、汚水・雑排水・通気:耐火二層管		5.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
2.4 信頼性				3.0	0.20		-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備		節水型便器の採用		3.0	0.20		-		
3 電気設備				3.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20		-		
5 通信・情報設備				3.0	0.20		-		

3 対応性・更新性			3.4	0.30		-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30		-	
1	階高のゆとり	階高:13.75m	5.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比=0.15	4.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30		-	3.1
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		大学既存建築物に形状や色彩を合わせ一体感のある計画	4.0	0.40		-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30		-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-		-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40		-	3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制		[BPi][BPIm]=0.66で建物の断熱を適切に配して負荷に配慮	5.0	0.20		-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEi][BEIm] = 0.70	4.0	0.50		-	4.0
4 効率的運用			3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00		-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価						-	
4.1	モニタリング					-	
4.2	運用管理体制					-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	3.2
1 水資源保護			3.4	0.20		-	3.4
1.1 節水		節水型便器、自動水栓、擬音装置採用	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.60		-	3.1
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		ビニル床材	3.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		比較的分別容易な構造	4.0	0.20		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.20		-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用		防水プライマー	4.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70		-	
1	消火剤		-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)	押出法ポリスチレンフォーム、吹付け硬質ウレタンフォーム採用	4.0	0.50		-	
3	冷媒		3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	3.2
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率:80%	3.8	0.33		-	3.8
2 地域環境への配慮			2.8	0.33		-	2.8
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.2	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減	行政指導なし	3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制	敷地外一般駐車場を確保、敷地内荷物搬入スペースの確保	2.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33		-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	1.00		-	
2	振動		-	-		-	
3	悪臭		-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制					-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害チェックリスト全項目該当、広告物照明無し	5.0	0.70		-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	